

新潟市を取り巻く状況

人口減少の加速

- 減少を続けている日本の人口は今後も減少し、平成 60 年には 1 億人を割り、平成 72 年には現在よりも約 4,132 万人減少する見通しです。
- 本市の人口は、平成 17 年の 81.4 万人をピークとして減少に転じ、平成 22 年には 81.2 万人となっています。
- 平成 22 年と平成 52 年の将来推計人口を比較すると、全市では、平成 52 年に 66.8 万人となり、平成 22 年と比較し 14.4 万人減少することが見込まれています。

全区で年少人口・生産年齢人口の減少

- 年少人口（0～14 歳）は、全区で減少し続け、平成 52 年には平成 22 年と比較し 4 万人減少し、6.3 万人と見込まれています。
- 生産年齢人口（15～64 歳）は、全区で減少し続け、平成 52 年には平成 22 年と比較し 16 万人減少し、35.6 万人と見込まれています。

異次元の高齢化

- 老年人口（65 歳以上）の推計では、平成 37 年までは全区で増加を続けますが、その後は複数の区で人口のピークを越え、減少に転じます。
- 高齢化率は、平成 22 年の 23.2%から、平成 32 年には 30%を超え、平成 52 年には 37.3%に達する見込みです。

加速する人口の自然減少

- 本市の自然動態は減少している一方で、社会動態は一定程度の増加傾向を維持していますが、近年は自然動態の減少が社会動態の増加を上回り、人口減少に転じています。

政策・施策

都市像Ⅰ 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市

- ①ずっと安心して暮らせるまち
- ②男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまち
- ③学・社・民の融合による教育を推進するまち
- ④地域力・市民力が伸びるまち

都市像Ⅱ 田園と都市が織りなす、環境健康都市

- ⑤地域資源を活かすまち
- ⑥人と環境にやさしいにぎわうまち
- ⑦誰もがそれぞれにふさわしい働き方ができるまち

都市像Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

- ⑧役割を果たし成長する拠点
- ⑨雇用が生まれ活力があふれる拠点
- ⑩魅力を活かした交流拠点
- ⑪世界とつながる拠点